

第4回 練馬区立東大泉第二保育園運営業務委託事業者選定委員会
会議要点記録

日 時：平成22年12月5日（日） 午後3時40分～5時30分
場 所：東大泉児童館
出席者：学識経験者2名、有識者2名、区立保育園園長経験者1名
児童青少年部長、保育課長、事務局

1. 応募事業者プレゼンテーション

運営業務委託プロポーザルに応募事業者からのプレゼンテーションを、20分間受け、その後に質疑応答を30分間行った。

なお、東大泉第二保育園の保護者19名の参観があった。

《主な質疑応答》

Q 表現力を養うための絵画や造形はどのように行っているか。

A 1歳児クラスから描画に取り組んでいる。子どもの心の内容を一人ひとり聞き取りながら、一つのものを作る。保育士は発達段階に応じて、技術的な支援を行う。そうすることにより、子どもは心の内容に安心感を持ち、保育士との信頼関係も築いていくことができる。

年に1回、作品展を開催し、作品を一堂に集めて、保護者に子どもの成長の過程を見せよう。

Q お泊り保育はどのように行っているか。

A 日ごろから公共交通機関を使った活動を行い、4歳児では園内でお泊り保育を行う。5歳児では園外のお泊り保育で、登山や川遊びをする。その中で、食事のメニューをどうするのかといった計画に子どもはかかわる。子どもたちは、自身が頑張った姿を保護者に見せる。

Q “保護者ととともに子育てを”という方針だが、大事にしている点は何か。

A 法人創設当初からの方針。子どもを中心として、保育園が保護者ととともに子どもをどう捉えるのかが大事。そのためには、子どもの成長の過程を保護者と共有して、個性や発達の課題をともに考えていく。そうすることにより、保護者と保育園が一緒になって子育てすることができる。

Q 「実践記録」をもとに子どもを捉えるというのが、その意義は何か。保育の中でどのように生かしていくのか。

A 子どもは、一人ひとり、発達や個性、感情表出は異なっている。

自園は、一人ひとりの職員が園のすべての子どもと関わりをもつことを重要視しており、みんなが家の一員という考えで保育を行っている。

一人の子どもに対して、すべての職員がかかわりをもつ中で、きめ細やかに感じとったままを記録し、それを元に園内で議論し、子どもの発達を共通認識するようにしている。

Q 過去に大きな事故はあったか。事故の対応はどのように行うか。

A 20年前にブランコで足にけがをした。その後、子どもたちが自分自身の身を守りながら遊具が使えるようにするにはどうすればよいか研究し、遊具の見直しを行った。それ以降、大きな事故はない。

子どもの発達段階を押さえながら、子どもがちょっと頑張れる、ちょっと危険けれども守れる体制を作って、生きる上で身体を守る力をつけることが大切だと考えている。

事故の際には、その内容によって医師の受診を嘱託医に判断を仰ぐ。事故の内容を事故簿に記録し、保育内容を検証し、共有化するようにしている。

Q 障害児の統合保育をどのように行っているか。

A 友だちの中で育つのが基本。難しさの内容によって職員を配置することもあるが、クラス担任が保育することを原則としている。法人設立2年目から障害児を受け入れて、毎年受け入れている。

市が派遣する巡回相談で、集団の中でどのように力を発揮し、発達の課題をどのようにクリアしていくか助言をもらう。それに基づいて、一人ひとり保育計画を立て、きめ細かく保育を行っている。

Q 行事などについて東大泉第二保育園と自園では違いはあるか。

A 子どもの成長を保護者とともに喜ぶ行事に力をいれていることに違いがある。

Q 保育士が継続して働ける職場にするための取り組みは何か。受託した場合に自園から何人異動してくるか。

A 職員の団結が大切。そのためには、仲良しになる仕組みづくりを行う。それにより、8割の職員が現在の職場に満足している。

受託した場合には、自園から8名異動の予定。仲良しの軸を作るためには、8名ぐらいは必要と考える。そこがしっかりしていれば、1年間の引継ぎ期間の中で、自園の中で研修したり、交流したりして、職員の団結を深めることが可能である。

Q 運営の継続についてはどう考えるか。

A 保育園を取り巻く国等のいろいろな動きがあり不安定だが、保育園運営の継続については、子どもを育てることという大事さは変わらないので自信がある。

いい職員がどれだけ保護者と手をつなげることができるのかが大切である。社会福祉法人なので、福祉についての絶対的な責任を負いたいと考えている。

Q 応募の動機は何か。

A 一つは、自園の保育について一つの到達点にあり、その保育を広めていきたいと考えた。

もう一つは、練馬区の委託は、1年間の準備期間があること。その間、失敗も含めて、いろんなことができ、地域をつかむ・子どもたちをつかむ・保護者と仲良くなることをやっていきたい。また、区の方針をつかんで、区にお願いすることはお願いしていきたい。

2. 園長予定候補者等ヒアリング

応募事業者について、ヒアリングを40分間（園長候補者のアピール10分・質疑応答30分）行った。